

寺
ごよみ十
月

一日 お講 板屋

六日 雪ん子劇団 婦人会

一六日 お講 三日市

一八日 お経の会

一九日 善巧寺報恩講
ホソコさ
まは年に

二〇日

一度の親鸞聖人のご法事です。

浄土真宗の門徒である私たちは

親の法事にもまして大切につと

めなくてはなりません。黒西組

では善巧寺からはじまって、荻

生の称名寺、生地の順昌寺、若

栗の真照寺、発願寺、三日市の

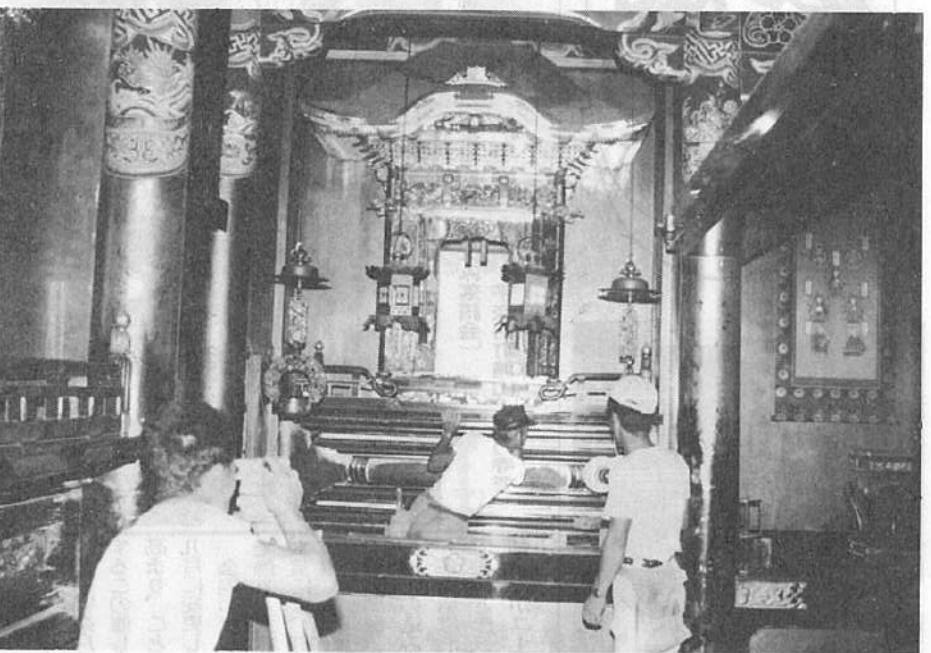
光開寺、内山の常照寺とつとめら

れ、二九日、三〇日の、東狐、板屋、

新浜から、門徒中の報恩講が半

年にわたってつとめられます。

家族そろって、おまいりいたし



本堂の修復も終わり、あとは内陣の荘厳を待つばかり一。

(写真は御開山の御厨子の傾きをなおす大藪工務店の人たち)

善巧寺報恩講は例年の如く十月十九、二十日の両日に亘って善巧寺本堂で勤修されます。

「星霜 積リテ幾ソバクノ歳ゾ。年忌、月忌 本所報恩之勤メオコタルコトナク、山川隔タルコト数百里、遠国、近国後弟参詣之儀ナオサカンナリ」と、嘆徳文にあるように、此の大切な法要に、今年も、門徒各位の御参詣をお待ちして居ります。

殊に、今年は、京都御本山に於ては、伝灯奉告の大法要の年に際して居り、又、私達、善巧寺に於ても、明後年の三法要を控えて、愈々大切な秋を迎えるわけがあります。

善巧寺本堂は一体何時建てられたのでしょうか。先年、本堂の瓦のふきかえをした時、屋根裏から、大きな櫓の板が二枚出て来ました。棟上げの時、記念に書かれたものと思われる木目もあざやかな此の板の一枚には、「本堂建築」と書かれ「明治十四巳年十月六日記之」とあります。

現在の善巧寺本堂が建てられたのは、明治十四年だったわけです。今年の十月で、百年目、満九十九年が経過して居ります。何回目かの改築でしょう。今、改めて数えて見ると、本堂には、百三十二枚の畳が敷かれてあります。此処百

善巧寺報恩講

年来、御門徒の方々が、この本堂のこの畳の上で、一年一度の善巧寺報恩講を迎えて来たのです。前述の櫓の一枚の板には、世話方の名前が、もう一枚の板には、大工の名前が、墨痕あざやかに書かれて、百年前の善巧寺の模様の一端が偲ばれます。総裁三名、副裁十五名。各村世話方二十五名。更に、正棟梁は、婦負郡針山新村 五十嵐権之丞とあり、脇棟梁、木挽、杣、屋根方、石工と続き、富山市、石動、砺波郡から、専門家がやって来ていることが判ります。

明治十四年と云うと、前住が満一才の時、従って、真教院順圓法師の代です。古老の話では、草深い田舎には画期的な大事業だった由で、当時の善巧寺門徒の力の入れようも亦、目を見はるものだったと言われます。その本堂も、百年の経過の中で、老朽の部分が出て来て居り、本年も、御覧の

ように、一部の改修を致して居ります。

明後年の法要を控えて、特に、内陣の荘厳に関しては、門徒各位の、倍旧の御熱意と御助力が待たれるわけで御座います。

賑々しい御参詣を願うと共に、一層の御喜捨を御たのみ致します。

住職 雪山俊之

寺報

善巧

発行

〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善巧寺
☎宇奈月(07656)(5)-0055

報恩講勤修

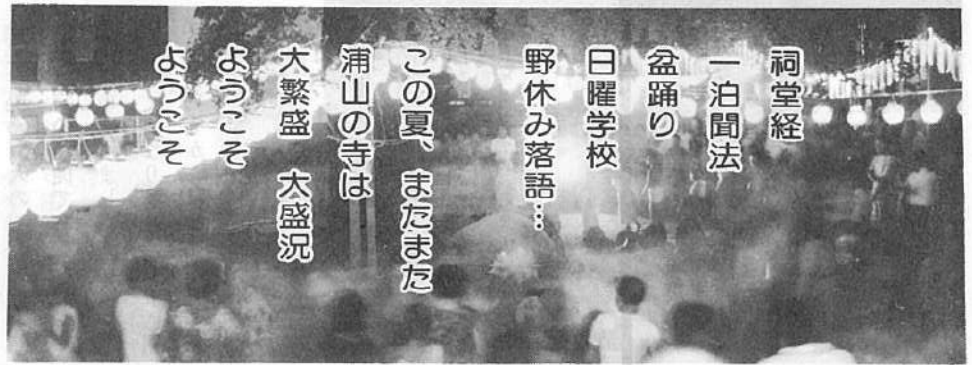
布教

本願寺
布教使

浦田秀栄師

十月十九日 逮夜(後一時) 初夜(後七時)
十月二十日 晨朝(前八時) 満座(後一時)

大繁盛 満堂樹礼



本堂は超満員、人気抜群の「野休み落語会」
—宇奈月町浦山、善巧寺で

宇奈月 ことしも「野休み落語会」 永六輔さんら熱演

三年目を迎えた「野休み落語会」が二十日夜、宇奈月町浦山の善巧寺本堂で開かれ、これまでの最高の約五百五十人が詰めかけて寄席の気分をたっぷりと味わった。

町内の農家や会社員らで作っている「宇奈月夢を語る会」が主催するこの催しも、年ごとに人気が高まり、ことしは六月の総選挙で九月に変更して開いた。

会場の境内は紅白のちょうちんで飾り、大きなろうそくがともる本堂には、町内をはじめ、黒部市、入善町からの家族連れや若い人で超満員。本堂の廊下も人が立つほどの込みよう。

「落語はお寺から生まれたもので」と法被姿の放送作家、永六輔さんがユーモアを交えた軽妙な

おしゃべりで開幕、柳家小はせさんの落語「道具屋」で始まり入船亭扇橋さんの古典「きやいのう」、花島世津子さんのマジックに、みんな大喜び。ここで入場料代わりの「オモシロ代」が集められた。

場内を回るさるに紙幣や硬貨が入れられた。最後に柳家小三治さんが登場、武家の酒をテーマにした古典「禁酒番屋」を、酒に酔った手ぶり身ぶりも鮮やかな熱演とあって、会場は笑いと拍手が渦巻いていた。



満堂の祠堂会



フトンびっしり—泊聞法

寺
ごよみ

十一月

- 一日 お講 愛本新 お経の会
- 三日 婦人会、雪ん子劇団
- 六日 報恩講—上野
- 一三日 報恩講—中陳
- 一五日 報恩講—浦山新
- 一六日 お講 浦山新
- 一九日 報恩講—魚津
- 二〇日 報恩講—出
- 二二日 報恩講—中新・栃沢
- 二四日 日曜学校
- 二五日 報恩講—浦山新
- 二六日 報恩講—石田
- 二九日 報恩講—石田



8.16豪雨、前代未聞！



8.15晴天、こども盆踊り

御堂の中での浦山盆踊り

三

ろくどう

生きとし生けるものは、六つの迷いの世界をぐるぐると回わっているもので、これを六道輪廻(ね)といいます。

「前世のナマリはわからんが、ふるさとのナマリならよくわかる。東京へ出て、いくら気取っておるものだ」

はらみつ

籍は畜生道だ
い、というん
たは三つとも
ようですな。

波羅蜜・バラ
たくいえばル
持戒とは戒律
守ること。平

間天上

そんなものあるのか、という前に、一体この私はどこからきたのか、ということを考えていただきたい。さあ、どこからやってきたんでしょうな、この人間界に……。

チヨウチヨウは自分が青虫というんです。

一口說法

い
ろ
は
に
ほ
へ
と

れには、六つの修行があつて、これを六波羅蜜といいます。

布施 持戒 忍辱 精進 禪
精進は、努力すること。
禪定は、千々に乱れる心を鎮

や、サナギであったとわかったことを知らないというから、私たちも、まあ、前世のことはわかるわけがない、ということになるかもしれない。

朝から晩まで、毎日ハラ立て
どおしの人はそのハラ立ちのナ
マリは、じつは地獄のものなん
だ。もうちょつとラクしたい。
もうちょつとカネほしい……と、

布施とは坊さんへのギャラで（しず）めるといふこと。そしてはなくて、こたわりを捨てての努（しむ）め、智恵は、ものごとを自分の思いををしる、ということ。布のままだに見ないで、ありのままに施はインドのダーナの意識です。に見るといふこと。が、このダーナをそのまま音訳（おんやく）できますか？ できないでし

しかし、ここに、ある高僧のこゝろがある。「ふるさとを離れてゐるあなたに、餓鬼道から来たナマリはとれんもんだで、自分でいんだよ。そして、ご恩知らずは、こだわりの捨て、代償を求め静かに省みることですな。分の心の中を、よく観察して犬畜生。おかげさまとよろこべめず、何でも施せる人のことを恥ずべし、傷むべし」とね。(雲)



日曜学校のよい子たち



床は大丈夫かな？



お寺をにぎやかにさせる
ようこそ集團のメンメン

そろいのハッピに
「夢」の字を染め
抜いて、その名も
夢を語る会

宇奈月 夢を 語る会

57年の大法要は春秋2回に

三法要

・宗祖 700回忌
・御誕生 800年
・明教院 200回忌

内陣莊嚴来年着手 待たれる特別寄進

夏の理事会
8月19日

五十七年にお迎えする寺の大法要は、春秋の二回に分けて盛大につとめられることになり、そのための内陣のお莊嚴、金箔塗り替えなどは、ご寄進を募つていよいよ来年春から着工することになりました。

これは、八月十九日に開かれた三法要理事会で決まったもので、まず、法要の日取りについては、一度に固めて行くこれまでの方法ではなく、春秋二度に分けて行つてはどうかという案が出されました。春は、寺の名物となつてゐるチューリップの花まつりがあり、これを利用して、宗祖の誕生八百年と門主の伝灯奉告の慶讃法要を合せて、よろこびの集いに。そして秋は、宗祖七百回忌と明教院僧録の二百回忌を厳粛につとめるというもの。春は門主、秋



総代会議開く

一般会計に人件費

善巧寺総代会は八月十九日開かれ、五十四年度決算、五十五年度予算案を審議しました。その結果、五十七年度の三法要をめざして、寺費一般会計の方は極力押さえて今年度は前年度に比べて五十万円

も切りつめることになりました。しかし、内容的には宗費の減少以外は充実した予算となつており今年度からはじめて人件費を計上しています。これは、これまでの寺の世話方や労働奉仕に対して、

は前門主をお呼びして、華美に走らず、粗末にならず、意義深い法要をつとめようということで見解を一致しました。一方、この法要を迎えるにあたって、建設事業はほぼ完成したも

の、内陣の莊嚴についてはまだ一切手がつけられていませんでした。しかし、五十七年春をメドに逆算すると、どうしても、来年一年間が莊嚴の年ということになり三法要予算、内陣法名特別懇志等から約七百万をかけて、御本尊のお身ぬぐいや巻障子の修復などを手がけることになりました。

ところが、柱の金箔、前卓、五具足など必要なものでありながら予算では手がまわらないというも

の、かなりあることがわかり、これらを一覧表にして、広く門信徒の方々にご寄進をおおぐことになりました。

三法要も「莊嚴の年」を前にして、いよいよ胸つき八丁というところ。理事会ではこの十月十九日の報恩講に、全員出席を目標にした総代、および門徒代表者会議を開き、役員改選をして、実行力ある理事会を再編成する覚悟だそうです。

総代会から心ばかりのお礼を出そうという声が出たため組み込まれたもの。

また、門徒のお葬式のさい、総代会から全員に弔電を打つてはどうかという案が出され、即決。寺に死去案内があれば、すぐに電報を打つことになりました。なお、この弔電は、できるかぎり、弔電披露の最初に読むようにとの申し合わせもなされたので、よろしくご協力下さい。

54年度 決算

収入	1,500,000
支出	1,535,052
	(-35,052)
①宗費	808,575
	(700,000)
○伝燈懇志	550,000
○賦課金	111,150
○門徒講費	147,425
②教化費	53,400
	(50,000)
○カレンダー	26,400
○供子一花会	5,000
○太子	22,000
③維持・運営費	417,800
	(410,000)
○除雪関係	66,000
○接会保	75,900
○光衛	25,000
○衛生	80,000
○雑費	115,900
④営繕費	40,000
	255,250
	(340,000)
○台所直し	140,000
○備品	115,250
総計	1,535,052

55年度 予算

収入	1,000,000
支出	1,000,000
①莊嚴費	50,000
○仏用品費	30,000
○供花道費	20,000
②教化費	50,000
○法要費	20,000
○教化費	30,000
③維持費	600,000
○営繕費	100,000
○当人件費	200,000
○人事費	30,000
○保安費	80,000
○雑費	150,000
○雑費	40,000
④宗費	300,000

来年は“莊嚴の年”

八月の理事会で確認された、「寄進の待たれる法具類は、第一に内陣の丸柱二十本の金箔（一本十七〜四二万）次に写真で二覧の山号額（七〇万）五具足（一六〇万）前卓（一八五万）登高座（一八〇万）のほか、余門の襖（二〇〇万）菊灯（三〇万）などの高額のものから五〜一〇万でいどのものまで数多くあります。

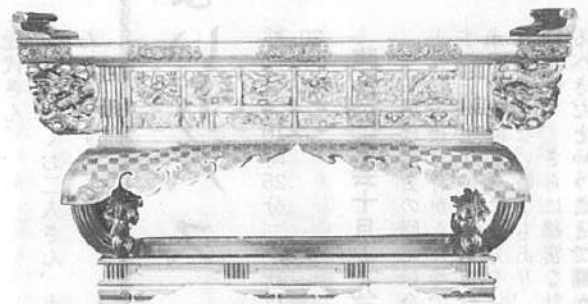
お志のある方は、是非、来春までに二報下さい。ご相談させていただきます。



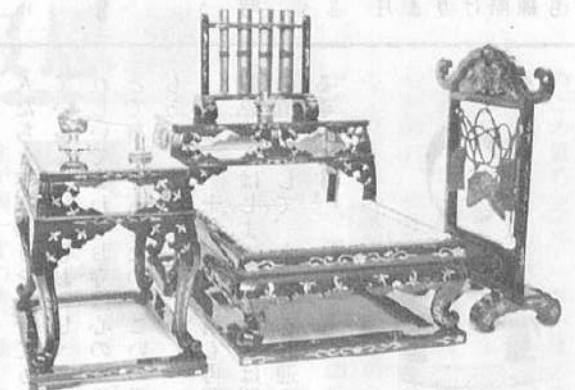
〈山号額〉



〈五具足〉



〈中尊前 前卓〉



〈登高座〉

九月八日（月） 今日も曇り模様。月初めに折角秋晴れが続いたと思つたのに、又もや秋霖。此処数日、五人の孫が次々に風邪引き。内孫三人と外孫二人。最年長が小学校六年。最年少は幼稚園。五人共に、言い合わたしたように、同じ病状の経過を辿っている。今度のウィルスは、可成り悪性の模様である。活発に跳ね廻っていたのに、夕食の膳につくと急に元気がなくなり、熱を計って見ると三十九度を越している。断続的に、熱が高下して、三日ほどしてやっと三十七度台になり、やれやれと思うと今度は咽喉に來たらしく、鼻をすすり出す。頭痛を訴える。それでも、五日間位で元氣快復して、又、飛び跳ね

ている。親達は、心配らしく、検温をしたり、医者に連れて行ったり、世間並に、親心に変りはない。七十才に近い小生も、四十数年前には二人の娘の成育に、氣をつかったことを思い出す。

今日は、一日法務無し。昨日、一昨日と、お葬式が続き、寺詣りの音沢、栃沢の方々との応待に何かと多忙を極めた。

やり残した雑務が山積している。中でも、内陣法名の執筆が最優先。妻の方は、明後日からの本山法要参詣の準備。黒西組の坊守連中の総参拝らしい。照

住職日記



行寺、法輪寺坊守も勿論同行の筈。小生は、書齋に引こもって、法名軸を上げる。硯にたっぷり水を注ぎ、とっておきの墨をする。心を落ちつけて、少しでも心のこもった字を書きたい。実は、十日以前に、総代の八十七翁が、総額二十五万円を持参され、五人の方々の法名を丁寧に半紙に書いて、内陣法名記載を申し出て下さった。

明治三十七年五月十四日 日法名釈教審は、同人父。昭和七年三月三十一日釈尼孝信は、同人母。昭和二十二年四月一日釈尼妙照は、同人娘。昭和五十四年六月

二十二日蓮香院釈尼妙静は同人妻。そして、真中に本人。此の中で、昭和七年の仏のお葬式は、小生が勤めたことを、不思議に記憶している。善巧寺本堂で、満堂の弔問者の中での葬式だった。小生は未だ学生だったが、たまたま父が浦山にいらなくて、帰省中、導師をつとめた筈だ。色々と昔を偲びながら、二字一字書いて行く。何年たっても、私の悪筆はなおらぬと見える。手が汚れたので、浴室に入ってシャワーを浴びる。夕食の、頂きものの三度豆のお浸しがおいしい。流石に秋色濃く、夜の書齋に、虫の音が快よくひびいてる。就床十時。

大いなる法名軸や 秋灯下
愛らしき蒲団並べて 風邪の児等

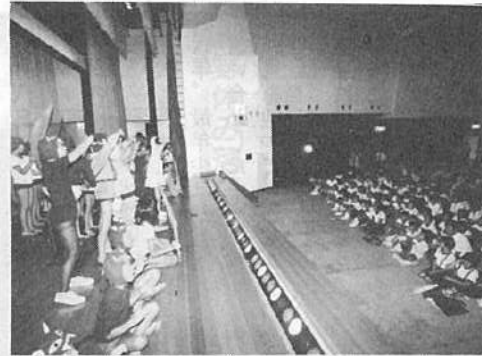
寺ごよみ

十二月

- 一日 お講 下立愛本
- 二日 報恩講 愛本新、中ノ口
- 三日 報恩講 下村、大橋
- 四日 報恩講 下立愛本
- 五日 報恩講 内山
- 六日 お講 浦山
- 一八日 報恩講 音沢
- 二三日 日曜学校
- 三〇日 除夜会 お寺の鐘をついて御堂へ初参り…という方がふえています。今年はあなたも

雪ん子劇団大活躍

ことばの教室「雪ん子劇団」が



いま、宇奈月でひっぱりだこの大
人気ノ ステージに、テレビに、
マスコミにと話題をふりまいてい
ます。

劇団員は三十人。出し物は「う
ちのとうちゃんえらいんだ」な
また「にわとり」とさかばな
赤い」の三本で、これを中心に毎
週お寺で発声練習や身体訓練をつ
づけています。

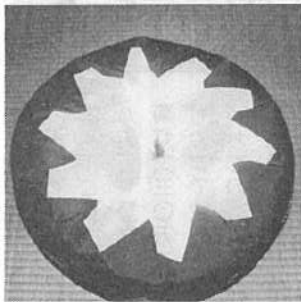
最近、すぐ近くに中央公民館
ができたこともあって、出演依頼
も続々。八月三十日には、宇奈

月の小、中学生五百人を前にして
堂々の熱演（写真）。また九月十五
日の敬老の日には、おとしより五
百人をにぎやかなミュージカルで
よろこばせ、フィナーレには全員
にプレゼントを配るなどのサービ
スも加わって、大成功。
こうした活躍ぶりは新聞やテレ
ビにも紹介されて「雪ん子」はい

まやかなかの売れっ子。十一月
の町の文化祭に出演したあとは、
三日市や入善、魚津などにもどん
どん出てゆこうと意気込んでいま
す。
劇を通して人の和と、豊かな表
現力という「雪ん子」たちが一
年足らずで大きく育ってきたよう
です。

ご寄進

☆大鑿ふとん 魚津の浦山みき
さん。昨年の報恩講に参られて、
大鑿のふとんが古くなっているの
に気がつかれ、寸法とってようや
く出来上がり。今年の報恩講から
使わせていただきます。



☆黒板 中新の尾沢初雄さん。
集会所にピッタリの中型黒板を。
これまでは、集会所でことあるこ
とに、本堂から谷口小一郎さんご
寄進の大黒板をガラガラと運んで
おりましたが、お経の会やら婦人
会など利用度は増すばかりなので
いっそ両方に...と、尾沢さん。庭
のツゲの木ともどもありがたう！



お二人さん

お寺の世話方は、野畑さんがな
くなられてから一年余り、本波貫
一さん（写真右）一人でテンテコ
舞いでしたが、このほど総代会と
寺から「なんとかたのんますちゃ」
とお願ひしたら「お役に立てるな
ら...」とこころよく引きうけて下
さったのが、写真左の中林久吉さ
んです。中林さんは隣村の下立の
総代さん。
とにかくお二人さん、よろしゅ
たのんますっちゃ！

報恩講におまいりバス

十月十九、二十日の寺のホンコ
さまに、おなじみの「おまいりバ
ス」を運行いたします。コースや
時刻は次の通りです。

☆Aコース 浦山新（9時）舟見
（9時10分）愛本新（9時15分）
愛本役場前（9時25分）音沢（9
時30分）内山（9時35分）
☆Bコース 中陳（10時）石田駅
前（10時10分）生地（10時20分）

臨時理事会十月十九日に

三法要理事会の臨時総会を十月
十九日午後三時から、寺で開きま
す。五十七年の法要もほぼ決まり
来年は内陣莊厳に全力を注がなけ
ればならない時でもあり、この際
理事会で、さらに綿密な計画を練
るべきだということで開かれるも
のです。必ず総代さん出席下さい。

合掌

八月十六日、村の盆踊りがお寺
へ里帰りしました。夢を語る会の
方々の努力もあって準備万端整い
ました。ところがいざとなつて、
ザーツと大雨。

そこで御堂内で、ということに
なりましたが「寺の御堂で!?!」
と驚く人が多かった。まあお寺は
じまつて以来かもしれません。し
かし、盆踊りは仏教的行事です。
本堂でマツカイターもけつこうじ
やないですか。

九月二十日の落語会では、司会
の永六輔さんが「ご承知のように
寄席のふるさとはお寺です。年に
一度、私たちはこうして落語家の
人たちと本家帰りをさせてもらっ
ているんです」とおっしゃる。う
れしいですね。お寺は心のふるさ
とであり、あなたのいいこの場で
もある。

そして、十月。お講も再開し、
報恩講もはじまつて、お寺は開法
の道場として、あなたをお迎えす
る季節です。

